



潮岬測候所だより 岡 四 四 亥

潮岬は熊野国立公園にふさわしい海岸美を有し、黒潮の恩恵をうけて気候に恵まれ、また観測上理想に近い地の利をしめている一面、生活上および観測上の苦勞も並んでないことは実際に勤務してみてもはじめて痛感される。

潮岬村は東西 4 km、南北 2 km、北は串本町に接し東は指呼の間に大島を望む。この狭い岬に 5 つの官署がより合っているのは偉観といえよう。いわく測候所、海岸無線局、灯台（航路標識事務所）、無線方位信号所および航空標識所である。

さて潮岬測候所は大正元年（1912）12 月創立し、高層観測を開始したのが昭和 16 年（1941）1 月であるが現在ではむしろ総合観測所の性格を持っている。すなわち高層観測、地上毎時観測（普通および特殊観測）のほか地磁気偏角計、水管傾斜計、高倍率地震計、検潮儀（串本および浦神）を設備し、さらに波浪目視観測、井水位観測をなす一方、京都大学の委託をうけて志田式微圧計（ビキニ水爆による気圧波を記録したもの）を観測している。近く重力委託観測をはじめる予定であり、将来は波浪計、海洋観測艇およびレーダーなどの設置が期待される。また特殊施設として 200 ワット無線送信機、3 K 発電機を有し大阪との通信を確保している。

勤務職員は 38 名（欠員 1 名）で男 37、女 1、有家族 25 世帯、独身 13 で家族を含めた総員は 100 余名に達するというなかなかの大世帯である。健康状態はがいして良好で休職 1 名、軽勤 1 名のみ、平均年齢は 31 才

となっている。

好天に潮岬にきた人はまず第一にその雄大にして明るい海岸の動的美に驚嘆するが、私は台風前日に巨大なうねりが巖頭に碎けるあの勇壮にして華麗、見る人をして圧倒しないではおかぬ壮観こそ正に潮岬の本領ではないかと思う。潮岬は多暖かく、夏涼しいという点（例えば平均最低気温は 3.7 度で、鹿児島より 1.4 度高く、また 8 月の平均最高気温は 29.0 度で鹿児島より 2.2 度低い）で恵まれている一方、冬の季節風は最大 20～25 メートル/秒に達し、また春雨梅雨でも日雨量 200 ミリ、台風に至っては 500 ミリを覚悟しなければならない。特に 5、6 月の雨季に低気圧が北方を通過し南よりの風となったら最後、塩分をふくんだ湿気はいたる所にカビを生じ、一年中で最もいやな季節である。苦あれば樂ありとか、夏の潮岬はまさに河童天国である。海岸到るところ絶好の釣場であり、海女とともにあわび採り天草（寒天の材料）採りに興ずることができる。

台風来しゆうの前哨である潮岬はさぞ災害が多いだろうというのは素人考で、事実は災害の多い和歌山県でも最も災害の少いところである。何故かといえば海拔 75 メートルの高台であるため、水害や潮害のおそれはなし、地盤が固いため震害も少い。災害といえば風害位のものであるが、これは長年の経験により建築様式にも防風林（垣）等にも工夫がこらされ災害を最小限にしている。

（潮岬測候所長）